

旧鎌倉図書館解体についての陳情

1. 陳情の要旨

旧鎌倉図書館を解体しプレハブ庁舎に建て替える事業はいったん停止し、広く市民や専門家を交えた旧鎌倉図書館の歴史的・文化的意義を検証する開かれた検討の場を設け、そこでの議論を踏まえて結論を出していただくよう要望します。

2. 陳情の理由

旧鎌倉図書館は、国宝館設立や英勝寺山門の保存に大きく貢献した篤志家・間島弟彦氏の寄付によって昭和11年に建てられた和洋折衷様式の、今もその瀟洒な風姿をとどめた歴史的建造物であり、また、御成小正門並びに旧講堂とともに特徴ある町並み景観をかたちづくっています。

100年を超える神奈川県内で最も古い歴史を持つ鎌倉図書館は、明治44年の創設時も篤志家の寄付によってつくられ、その後も有名無名の多くの市民による本の寄贈に浴するなど、市民との深い結びつきのもとに鎌倉の教育・文化に資する活動をしてきました。

その意味で、旧鎌倉図書館は近代鎌倉の歴史と文化の一端を目に見える形で示す貴重な建造物と言っても過言ではありません。

戦前に建てられた図書館では県内に唯一残された建造物でもある旧鎌倉図書館を、歴史的検証作業を経ることなく、また市民や議会への丁寧な事前の説明もなく、庁内検討会議の議論だけで解体を決定することには、多くの市民から疑問の声が上がっているところです。

解体に伴う予算が12月の市議会で可決されましたが、いまいちど「歴史的遺産と共生するまちづくり」という市自身が掲げるコンセプトに立ち返り、予算執行は一時凍結し、開かれた場での議論を尊重したうえで今後の施策を再考していただくよう要望いたします。

平成27年2月10日

提出者 鎌倉市笛田●丁目●番●号
図書館とともだち・鎌倉
代表 和田安弘
他8名

鎌倉市議会議長 中村聡一郎様